

「社医研の衣笠」連続発表36年の秘訣

東洋大学 片平 洌彦

日本社会医学会（旧「社医研」）50周年、おめでとうございます。役員（理事）の一人として、一時は消滅の危機もあったのに、諸先輩の努力でそれを乗り越えて今日に至っていることを、共に感謝し、喜びたいと思います。

さて、私は、1971年の第12回総会（岡山）が初参加で、翌年1972年の第13回総会（大阪）が初発表でした。ですから、大学院在籍中の26歳時から参加していることになります。そして、1974年の第15回総会（名古屋）から毎年発表を重ね、来る第50回総会（札幌）でも発表を予定していますので、これで「連続36年発表」という記録を達成することになります。

以前、東大のY先生が、私の連続発表の姿を見て、「社医研の衣笠」と命名してくれました。衣笠というのは、ご存じと思いますが、「赤ヘル」広島カープの選手だった衣笠祥雄氏のことで、彼は、1965年から1987年迄、通算23年間、2215試合連続出場し、世界記録（のちに破られ、日本記録）を達成しました。プロ野球とは比較になりませんが、年数では私は13年も長く、かつ、今後も更新の見込みです（笑い）。

今回、このような記録を達成できた理由を考えてみました。第一にあげるべきは、「社医研の魅力」です。入会時の総会記録（『公衆衛生』36巻12号6頁、1972年）における丸山博先生の「『社医研』への誘い」には、「・・・つねに問題意識をほりさげて、事態の真相をえぐりだし、それへの対策をめざす真実探求の姿勢を、たゆみなく続けてきておることは、『社医研』の特色だといってよい。」「・・・日本国民が当面している保健医療衛生の諸問題に、たんに現行医療保健衛生行財政の政策に無批判に追随するのには反対し、むしろ率直に、大胆に、住民の立場に立って、住民とともに、これを批判し、その是正のためには、時の権力や権威にひるまず、警鐘をうちならし、その科学的根拠をあきらかにしてきた。」という文章が記されていますが、まさにこのような姿勢で、人々のかけがえのない生命と健康を守ろうとする研究者の集まる場に、私は強く魅かれたのです。そして、「努めて参加しよう」から、いつしか、「必ず参加しよう」と思うようになったのです。

第二に、自分の側に、発表すべきテーマが沢山あったことです。特に、薬害問題は、スモン以来、次々と「急務の課題」が眼前に提示され、これが私のライフワークとなりました。今回記録を振り返ったら、スモンだけで何と13回も発表しています。私（たち）の薬害問題の研究発表は、何度かマスコミにも取りあげていただき、多少は被害者・国民のお役に立ったと思われまます。（そうした必要のない社会を早く作りたいですね！）

若い社会医学関連の研究者の皆さん、是非この私の「連続発表記録」に挑戦して、いつの日か、新記録を樹立して下さい！そして、そうしたことを通じて、人々のかけがえのない生命と健康を守ることに貢献して下さい！

（2009年5月10日・記）